



11月になり、6月から始まった令和2年度の学校生活も、折り返しになりました。令和2年度第2回の西紀小学校運営協議会は、「Withコロナ」の考えのもと、西紀小学校で開催です。学習発表会の代わりに授業参観の後、以下のことについて協議いたします。

協議事項

1. 再開後の西紀小学校（学力・生活・学校評価中間報告）について
2. 「ふるさと学習」・学校運営協議会主催事業等の進捗について
3. 西紀小学校運営協議会 収支中間報告と今後の執行について
4. 情報交換



◇ 学校運営協議会主催事業の状況 ◇

学校運営協議会主催事業は、西紀っ子の「ほんまもんにつれる・地域の人に学ぶ ふるさと学習」の中の全校行事で、1学期：地域校外学習、2学期：運動会、3学期：地域防災訓練、と学期毎に設定しています。

1学期の地域校外学習はコロナウィルス感染拡大防止のため、10月27日に延期して実施し、2学期の運動会は、学校だよりでも紹介のあったように「地域・保護者・学校がみんなで楽しむ運動会」のあり方について、学校運営協議会委員・育友会代表・学校職員で協議しました。残念ながら、コロナウィルス第2波のため実現しませんでした。来年度以降も「運動会」について検討していきます。

10月27日の地域校外学習は例年のモデルコースではなく、里づくり振興会役員と学校職員で協議し、新たな行き先として「栗柄ダム」を県・市からの支援もいただいて実施しました。



今年は丹波篠山市バスを借りて全員で栗柄へ！

低学年と高学年の二手に分かれて、栗柄ダムと創作館の見学をしました。



創作館では、種から育てた綿の種を取り、糸に紡ぎ、草木で染色し、布に織る…流れを体験を交えて教えていただきました。

「できた布でどんな物が作られるのかな？」興味津々の子ども達です。

着ておられる上着やかばん、お財布、名刺入れなど、西紀の自然の中から生まれた丹波木綿の風合いの良さを感じると共に、守り伝える伝統の技や創作館の方々の願いなども、受け取りました。



初めて行った栗柄ダムは、上から水を見るだけでなく、管理されている所にも入って説明をいただきました！



「俱利伽羅不動の滝」や「分水嶺」のお話も聞きながら見学し、今年は「西紀の水」について深く学ぶことができました。

◇ 学校再開後の西紀小学校（学力・生活）の状況 ◇

10月に「学校中間評価」としてとられた「西紀小学校の教育に関するアンケート」をもとに、学校運営協議会で検討し、下半期の西紀小学校の教育活動に活かします。

アンケート結果を、肯定的な評価の全体に占める％で90%以上を◎、60～89%を○、60%未満を△として、わかりやすく表しています。差というのは、実際の「子どもの％－保護者の％」で、単純な数字の差です。親子の数値の差が顕著な項目の番号に○をつけ、また昨年度と比較して気になる点については太字にしています。（ ）は昨年度中間評価です。

	No.	アンケート内容	子ども	保護者	差
学び続ける自分づくり	1	学校や家で進んで学習しているか	◎(◎)	○(○)	9(14)
	2	漢字や計算などの基礎学力が身についているか	◎(◎)	○(○)	6(18)
	3	思ったことや考えたことを話しているか	○(○)	◎(○)	-5(-6)
	4	ノートをていねいに書いているか	○(○)	○(○)	13(6)
	⑤	「腰骨」を立てるように意識しているか	○(○)	△(○)	46(43)
自学ぶ分びるぶ続さくけとり	6	<u>ふるさとを愛する心が育っているか</u>	◎(○)	◎(○)	5(7)
	⑦	自分の夢や目標に向かって努力しているか	◎(○)	○(○)	32(20)
	8	自分からあいさつをしているか	◎(◎)	○(○)	3(8)
自た分くぶまくり	9	毎日楽しく学校に通っているか	◎(◎)	◎(○)	0(6)
	10	人権意識が育っているか	◎(◎)	◎(○)	2(7)
	⑪	進んで運動をしているか	◎(◎)	○(○)	21(9)
	12	学校からの情報で学校の様子がわかるか	○(○)	◎(◎)	-4(-7)

子どもの自己評価が高い傾向は昨年と同じですが、全体に◎が増えました。

特にNo.6「ふるさとを愛する心」が親子共に◎になったことをうれしく思います。

全体的に親子の意識差がわずかでも減っていることも、ご家庭で学校生活や家庭学習に大きな関心を寄せて取り組んでいただいている「連携強化」の現れと考えます。



No.5「腰骨」については昨年と余り変わらない差があり、保護者評価は△です。「立腰教育」は姿勢をよくする事よりも、自分の体と向き合い集中力を高める毎日1分の積み重ねです。5時間目でも腰骨を立て集中して問題に取り組む子ども達の姿があります。どんな時に腰骨を立てるのか、お子さんに聞いていただくのはいかがでしょうか。



No.7「夢や目標」も差が大きいです。昨年よりも親子の意識差の開きが大きいことが気になります。子ども達が自分の夢や目標を叶えるために、日々の勉強に取り組み、成長を実感できるよう、学校と家庭や地域で一層体験的な学びを増やしていけたらと考えます。

No.11「運動」の親子の意識差が昨年より大きいのは、コロナ禍の影響でしょうか…。学校はもちろん、社会的にもコロナ対策をとりながらスポーツを楽しむ機運が高まっています。

「よく学び、よく遊べ」はいつの時代も大切ですね。「遊び」が、外で体を動かし、仲間とより良く生きる体験につながるように願っています。

